

## 主 日 前 晚 課

### 第7調

注意 譜面中、五線譜上に  とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、氣をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

2023年11月 釧路管轄司祭ステファン内田 作成

**司祭** われら かみ つね あが ほ いま いつ よよ  
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、



司祭) きた われら おう かみ こうはい  
來れ、我等の王・神に叩拜せん、

きた われら おう かみ こうはいふく  
來れ、ハリストス・我等の王・神に叩拜俯伏せん、

きた われら おう かみ まえ こうはいふふく  
來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩拜俯伏せん、

きた かれ こうはいふふく  
**來れ、彼に叩 拜俯伏せん、**

## 【 第103聖詠（首誦聖詠：我が靈よ主を讃め揚げよ）】

わ我がたましいよお、しゅをほめえあげよ。  
靈主讚揚

しゅよ、なんぢいはあがめほめえらる。しゅ主  
主爾崇讚

わ我がかみよ、なんぢはいたつておおいなり。  
神爾至大

しゅよ、なんぢいはあがめほめえらる。な爾  
主爾崇讚

んぢはこおえいといげんとをこおむられり。  
光榮威嚴被

しゅよ、なんぢいはあがめほめえらる。やま山  
主爾崇讚

のいただあきにいみづた立つうみいづうた立  
嶺水立

つ。しゅうよ、なんぢのしわざあはあきいいな  
 主爾工業奇異  
 り。

やまのあいだあにいみづながるう、みい  
 山間水流水  
 づなあがる。しゅうよ、なんぢのしわざあはあきい  
 流主爾工業奇  
 いなり。  
 異

みなちえをもってつくれりちえ  
 皆智慧以作  
 をもってつくられり。  
 以作

こおえいはなんぢばんぶつをつくりししゅにいき  
 光榮爾萬物作主歸  
 す。

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも  
 光榮父父子聖神歸  
 いつもよよに、アミン。  
 何時世世

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ  
 神  
 よこうえいはなんちにきす。  
 光榮爾歸  
 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ  
 神  
 よこうえいはなんちにきす。  
 光榮爾歸  
 アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ  
 神  
 よこうえいはなんちにきす。  
 光榮爾歸

【 大聯禱 】

司祭) われらあんわ しゅ いの 我等安和にして主に禱らん、

しゅあわれめよ。  
 主憐

司祭) うえ くだ あんわ われら たましい すくい ため しゅ いの 上より降る安和と我等が 靈の救の爲に主に禱らん、

しゅあわれめよ。  
 主憐

司祭) ぜんせかい あんわ かみ せい しょきょうかい けんりつ およ しゅうじん ごういつ ため しゅ いの 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、

しゅあわれめよ。  
 主憐

司祭) こせいどう およ しん つつしみ かみ おそ こころ もつ ここ きた もの ため しゅ いの 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来る者の爲に主に禱らん、



司祭) 教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリス

トスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



司祭) 我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



司祭) 此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



司祭) 氣候順和、五穀豊穣、天下泰平の爲に主に禱らん、



司祭) 航海する者、旅行する者、病を患うる者、難に遭う者、擴となりし者、及び

かれら すくい ため しゅ いの  
彼等の救の爲に主に禱らん、



司祭) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが爲に主に禱らん、



司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭) しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ  
至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

しょせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら  
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ かみ いたく  
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) けだし およ こうえいそんきふくはい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ  
蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、



【 第一カフィズマ 第一段 】



おそれてしゅにつとめよ、おののきてそのまえ  
 畏主勤戦其前  
 によろこべよ、アリルイヤ、アリルイ  
 喜ヤ、アリルイヤ。

およそかれをたのむものはさいわいなり、  
 凡彼恃者福  
 アリルイヤ、アリルイヤ、アリル  
 イヤ。

しゅやたてよ、わがかみや、われをすくいた給  
 主立吾神我救給  
 まえ、アリルイヤ、アリルイヤ、  
 アリルイヤ。

すくいはしゅによるなんぢのこうふくはなんぢのた  
 救主依爾降福爾民  
 みにあり、アリルイヤ、アリルイ  
 在ヤ、アリルイヤ。

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも  
光榮父子聖神歸今  
いつもよよに、アミン。アリルイヤ、ア  
何時世世  
リルイヤ、アリルイヤ。

【 小聯禱 】

司祭) われらまたあんわ しゅ いの  
我等復又安和にして主に禱らん、

しゅあわれめよ。  
主憐

司祭) かみ なんぢ おんちょう もつ われら たす すぐ あわれ まも  
神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

しゅあわれめよ。  
主憐

司祭) しせいしけつ いた さんび われら こうえい ちよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ  
至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の

いのち もつ かみ いたく  
生命を以て、ハリストス神に委託せん、

しゅなんぢに。  
主爾

司祭) けだしけんべいおよ くに けんのう こうえい なんぢちち こせいしん き いま いつ よよ  
蓋 権柄 及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、

アミン。

【 第140聖詠（主よ爾に籲ぶ） 第7調 】

しゅ よ なんちに よ ぶ すみ やかに われに いたり たり たり たり  
 主 爾 呼 速 みやかに 我れに 我れに 我れに 我れに 我れに 我れに  
 まえ、しゅ よ われに ききたまえ、  
 まえ、な んちに よ ぶ と きわがいのりのこ聲  
 えをいれたまえ、しゅ よ われに ききたま  
 あえ、ねがわくはわがいのりはこうろ爐  
 のかおりのごとく、なんちがかんばせのまえ  
 にのぼりり、わがてをあげるはくれのまつ  
 りのごとくいれられん。しゅ よ われに ききたま  
 まあえ。

**誦經** しゅ わくち まもり お わくちびる もん ふせ たま わ こころ よこしま ことば かたぶ  
主よ、我が口に衛を置き、我が唇の門を扞ぎ給え、我が心に邪なる言に傾

ふほう おこな ひととも つみ いいわけ なか ねが われ かれら あまみ な  
きて、不法を行う人と共に、罪の推諉せしむる母れ、願わくは我は彼等の甘味を嘗め

ぎじん われ ばつ こきょうじゅつ われ せ こい うるわ あぶら わ  
ざらん。義人は我を罰すべし、是れ矜恤なり、我を譴むべし、是れ極と美しき膏、我

こうべ なや あた もの ただわ いのり かれら あくじ てき かれら しゅちょう いわお  
が首を懼ます能わざる者なり、唯我が禱は彼等の惡事に敵す。彼等の首長は巖石の

あいだ さん わ ことば にゅうわ きく われら つち ごと き くだ わ ほね ぢごく くち  
間に散じ、我が言の柔和なるを聞く。我等を土の如く研り碎き、我が骨は地獄の口に  
ち お しゅ しゅ ただわ め なんぢ あお われなんぢ たの わ たましい しりぞ なか  
散りて落つ。主よ、主よ、唯我が目は爾を仰ぎ、我爾を持む、我が靈を退くる母  
わ ため もう わな ふほうしゃ あみ われ まも たま ふけんしゃ おのれ あみ かか  
れ。我が爲に設けられし涙、不法者の網より我を護り給え。不虔者は己の網に罹り、  
ただわれ す え  
唯我は過ぐるを得ん。

### 【 第141聖詠 】

わ こえ もつ しゅ よ わ こえ もつ しゅ いの わ いのり そのまえ そそ わ うれい  
我が聲を以て主に呼び、我が聲を以て主に禱り、我が禱を其前に注ぎ、我が憂を  
そのまえ あらわ わ たましい うち よわ とき なんぢ われ みち し わ ゆ みち おい  
其前に顯せり。我が靈の衷に弱りし時、爾は我の途を知れり、我が行く路に於て、  
かれら ひそか わ ため あみ もう われみぎ め そそ ひとり われ みと もの われ  
彼等は竊に我が爲に網を設けたり。我右に目を注ぐに、一人も我を認むる者なし、我  
のが ところ わ たましい かえりみ もの しゅ われなんぢ よ い なんぢ われ  
に遁るる所なく、我が靈を顧る者なし。主よ、我爾に呼びて云えり、爾は我の  
かくこれが い もの ち おい われ ぶん わ よ き たま われはなはだよ わ  
避所なり、生ける者の地に於いて我の分なり。我が呼ぶを聽き給え、我甚弱りたれば  
なり、我を迫害する者より救い給え、彼等は我より強ければなり。

句⑩ 我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讚榮せしめ給え。

讃詞⑩ 來りて、死の權を滅し、人類を照しし主の爲に喜びて、無形の者と共に呼ばん、  
わ ぞうせいしゅおよ きゅうせいしゅ こうせい なんぢ き  
吾が造成主及び救世主よ、光榮は爾に歸す。

句⑨ 爾恩を我に賜わん時、義人は我を環らん。

讃詞⑨ 救世主よ、爾は我等の爲に十字架と葬とを忍び、神なるに因りて死を以て死を  
ほろぼ たま ゆえ われらなんぢ みつかめ ふくかつ ふくはい しゅ こうせい なんぢ き  
滅し給えり。故に我等爾の三日目の復活に伏拜す。主よ、光榮は爾に歸す。

句⑧ 主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聞き給え、

讃詞⑧ 使徒等は造成主の復活を見て、奇として、諸天使の讃美を歌えり、是は教會の光榮  
これ くに とみ われらため くるしみ う しゅ こうせい なんぢ き  
なり、是は國の富なり。我等の爲に苦を受けし主よ、光榮は爾に歸す。

句⑦ 願わくは爾の耳は我が禱の聲を聞き納れん。

讃詞⑦ ハリストスよ、不法の人人に執われたれども、爾は我の神なり、我耻ぢず、肩を打た  
れたれども、我諱まず、十字架に釘せられたれども、我隠さず、我爾の復活を誇る、  
けだしなんぢ し われ いのち りぜんのう ひと あい しゅ こうせい なんぢ き  
蓋爾の死は我の生命なり。全能にして人を愛する主よ、光榮は爾に歸す。

句⑥ しゅ も なんぢふほう ただ しゅ だれ よ た しか なんぢ ゆるし ひと なんぢ  
主よ、若し爾不法を糺さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾

まえ つつし ため  
の前に敬まん爲なり。

讃詞⑥ハリストスはダヴィドの預言を行ひて、シオンに於て己の尊大なるを門徒に顯して、

おのれ つね ちちおよ せいしん とも さんびさんえい もの しめ けだしかれ さき むけい  
己が常に父及び聖神と偕に讃美讃榮せらるる者なるを示せり。蓋彼は先に無形

ことば のち われら ため み と ひと な ころ けん もつ ふくかつ じんあい  
なる言にして、後に我等の爲に身を取り、人と爲りて殺され、權を以て復活せし仁愛

しゅ さんえい  
の主として讃榮せらる。

句⑤ われしゅ のぞ わ たましいしゅ のぞ われかれ ことば たの  
我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

讃詞⑤ハリストスよ、爾は欲せし如く地獄に降り、神及び主宰として死を滅し、三日目に

ふくかつ ちごく かせおよ きゅうかい おのれ とも ふくかつ よ  
復活して、アダムを地獄の桎梏及び朽壊より己と偕に復活せしめて、呼ばしめたり、

ひとひと あい しゅ こうえい なんぢ ふくかつ き  
獨人を愛する主よ、光榮は爾の復活に歸す。

句④ わ たましいしゅ ま ばんにん あさ ま ばんにん あさ ま はなはだ  
我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

しゅ なんぢ い もの ごと はか お のうりょく つよ もの みつかめ ふくかつ ぜん  
讃詞④主よ、爾は寝ぬる者の如く墓に置かれ、能力の強き者として三日目に復活し、全

のうしや おのれ とも し きゅうかい ふくかつ たま  
能者としてアダムを己と偕に死の朽壊より復活せしめ給えり。

句③ ねが しゅ たの けだしあわれみ しゅ おおい あがない かれ かれ  
願わくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼

そのことごと ふほう あがな  
はイズライリを其悉くの不法より贖わん。

さんび ちよさい われら てんたつしや なんぢ てんしら よろこび なんぢ ひとびと こうえい なんぢ  
讃詞③讃美たる女宰、我等の轉達者よ、爾は天使等の歡喜、爾は人人の光榮、爾

しんじや たのみ かみ よめ われらなんぢ ほ うた しゅうじん およそ きなん うち なんぢ  
は信者の倚頼なり。神の聘女よ、我等爾を讃め歌う衆人は凡の危難の中に爾に

はしつ なんぢ きとう もつ てき や たましい なやみ しゅじゅ うれい のが ため  
趨り附く、爾の祈禱を以て敵の矢と、靈の惱と、種種の憂より脱れん爲なり。

句② ばんみん しゅ ほ あ ばんぞく かれ あが ほ  
萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ、

さんび しょうしんぢよ おっと し み せかい ため かみおよ きゅうせいしゅ う ぢよ  
讃詞②讃美たる生神女、夫を識らずして身にて世界の爲に神及び救世主を生みし女

さい ひとり ら かくれが もの なんぢ われ たのみ なんぢ われ てんたつしや  
宰、獨ハリストティアニア等の避所なる者よ、爾は我の倚頼、爾は我の轉達者と、

かき かくれが なんぢ きとう もつ われら かこ ゆうわく きなん かんなん のが ため  
垣牆と、避所なり。爾の祈禱を以て我等を圍む誘惑と、危難と、患難より脱れしめ給

え。

句① けだしかれ われら ほどこ あわれみ おおい しゅ しんじつ なが そん  
蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

讃詞① 生 神童貞女よ、我が肉體の動搖を止め、我が慾の焰を滅し、我が望の惡熱を我  
 より斥け、我が頑固なる風習を改めて、我を惡鬼の攻撃より護り給え、我が心の安  
 静、我が靈の無慾の中に爾讃美たる者を讃め歌わん爲なり。

【 ドグマチカ (生神女讃詞) 第7調 】

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも  
 光榮父 子 聖神 彌歸 いつもよよおに、アミン。  
 何時世世 しょうしんぢょよお、なんぢはせいにこえてははとし  
 認識 生神女 爾 性 超母 られ、ことばとちしきとにこえてどうて  
 貞 女 止 いぢよにとどまれり、したはなんぢのさんのき  
 奇 女 止 せきをいうあたわず。けだしいさぎよき  
 跡 言能 盖 潔 ものよ、なんぢのはらみはしえいにして、  
 者 爾 降孕 至榮 さんのさまはさとりがたし、かみのほっする  
 産状 悟 難 神 欲 ところにはてんせいのほううかたるればなり。  
 所 天性 法 勝

ゆえにわれらみなならんぢをかみのはは  
 故我等皆爾神母  
 としりて、せつになんぢにもとむ、われら等  
 識切爾求我等  
 のたましいのすくわれんことをいのりた給  
 靈救われんことをいのりた給  
 まあえ。

司祭) 睿智、肅みて立て、

【聖ソフロニイの祝文】

せいにしてふくたるじょうせいなるてんのちの父  
 聖福常生天父  
 せいなるこうえいのおだやかなるひかりイイ  
 聖光榮穏光  
 ススハリストスよ、われらひのいりにいたりく  
 我等日入に至暮  
 れのひかりをみて、かみちちとことせいしん  
 光見神父子聖神  
 をうとおう。いのちをたもうかみのこ  
 歌生命賜も神子  
 よ、なんぢはいつもけいけんのこえにてうたわ  
 爾何時敬虔の聲にてうたわ

るべし、ゆえにせかいはなんぢをあがめ  
ほむ。  
謳讃

【 大プロキメン 第6調 】

司祭) 謹みて聽くべし、衆人に平安、睿智、

誦經) 提綱、主は王たり、彼は威嚴を衣たり、

しゅはおうたり、かれはいげんきんをきた  
主 王 彼 威 嚴 衣  
り、

誦經) 主は能力を衣、又之を帶にせり、

しゅはおうたり、かれはいげんきんをきた  
主 王 彼 威 嚴 衣  
り、

誦經) 故に世界は堅固にして動かざらん、

しゅはおうたり、かれはいげんきんをきた  
主 王 彼 威 嚴 衣  
り、

誦經) 主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん、

しゅは おうたり、かれは いげんをきた  
主 王 彼 威嚴 衣  
り、

誦經) しゅ おう  
主は王たり、

かれは いげんをきたり。

【重聯禱】

司祭) かみ なんぢ おおい あわれみ よ われら あわれ なんぢ いの き い あわれ  
神よ、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、

しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

司祭) またわがくに てんのうおよ くに つかさど もの ため いの  
又我國の天皇及び國を司る者の爲に禱る、

しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

司祭) またきょうかい つかさど そんき われら ぜんにっぽん ふしうきょう およ お  
又教曾を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、及びハリストスに於

ことごと われら けいてい ため いの  
ける悉くの我等の兄弟の爲に禱る、

しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

司祭) またつね きおく ふく こ せいどう こんりゆうしゃ およ すで ねむ ことごと ふそけいてい  
又恒に記憶せらるる福たる此の聖堂の建立者、及び既に寝りし悉くの父祖兄弟、

こところ しょほう ほうむ せいきょう もの ため いの  
此の處と諸方に葬られたる正教の者の爲に禱る、

しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

司祭) またかみ しょぼくこ せいどう けいてい じれん せいめい へいあん そうけん きゅうしょく けんこ かんゆう  
又 神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、眷顧、寛宥、

および諸罪の赦を賜わんが爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

司祭) またこ せいどう もの たてまつ ぜんぎょう おこな これ ろう これ うた およ ここ た  
又此の聖堂に物を獻り、善業を行い、之に勞し、之に歌い、及び此に立ちて

なんぢ おおい ゆたか あわれみ あお のぞ もの ため いの  
爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



しゅあわれめ、しゅあわれめ、しゅあわれめよ。  
主憐 主憐 主憐

司祭) けだしなんぢ じれん ひと あい かみ われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま  
蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も

いつ よよ  
何時も世世に、



誦經) しゅ われら まも つみ こ くれ わた たま しゅわ せんそ かみ なんぢ あが ほ  
主よ、我等を守り罪なくして此の晩を度らせ給え、主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃

められ爾の名は世世に尊み歌わる、アミン。

しゅ なんぢ たの よ なんぢ あわれみ われら た たま しゅ なんぢ あが ほ  
主よ、爾を恃むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給え、主よ、爾は崇め讃めらる、

なんぢ いましめ われ おし たま しゅさい なんぢ あがめほ なんぢ いましめ われ さと たま  
爾の誠を我に訓え給え、主宰よ、爾は崇讃めらる、爾の誠を我に悟らせ給

え、聖なる者よ、爾は崇讃めらる、爾の誠にて我を照し給え。

しゅ なんぢ あわれみ よよ あ なんぢ て つく もの す なか ほまれ なんぢ き  
主よ、爾の憐は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ、讃は爾に歸し、

うた なんぢ き こうえい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ  
歌は爾に歸し、光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

### 【 増聯禱 】

司祭) 我等主の前に吾が晩の禱を増し加えん、



しゅあわれめよ。  
主憐

司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、

しゅ あ わ れ め よ 。  
主 憐

司祭) 此の晩の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、

しゅ た ま え よ 。  
主 賜

司祭) 平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、

しゅ た ま え よ 。  
主 賜

司祭) 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、

しゅ た ま え よ 。  
主 賜

司祭) 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、

しゅ た ま え よ 。  
主 賜

司祭) 我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、

しゅ た ま え よ 。  
主 賜

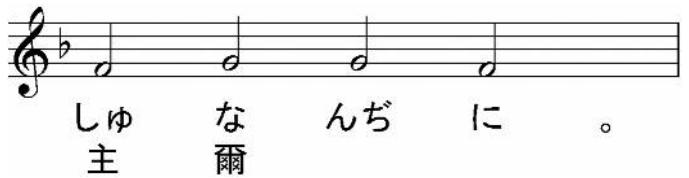
司祭) 我等の生命の終がハリストニアニに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及びハ

リストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、

しゅ た ま え よ 。  
主 賜

司祭) しせいしけつ いた さんび われら こうえい ぢよさい しょうしんぢよ えいていどうぢよ  
至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、

しよせいじん きおく われらおのれ みおよ たがい おのおの み もつ ならび ことごと われら  
諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の  
いのち もつ かみ いたく  
生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) けだしなんぢ ぜん ひと あい かみ われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま  
蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も

いつ よよ  
何時も世世に、



司祭) しゅうじん へいあん  
衆人に平安



司祭) われら こうべ しゅ かが  
我等の首を主に屈めん



司祭) (黙經 しゅわ かみ てん かが じんるい すぐ ため くだ もの なんぢ しょぼく なんぢ  
主我が神、天を屈めて人類を救うが爲に降りし者よ、爾の諸僕と爾の  
嗣業とを顧み給え、蓋爾の諸僕は、爾畏るべくして人を愛する  
しぎょう かえり たま けだしなんぢ しょぼく なんぢおそ ひと あい  
審判者に首を屈め、己の頸を伏し、人の助を俟たず、乃爾の憐を  
まち なんぢ すくい あお もと かれら つね まも かれら こ ゆうべ つぎ いた  
俟ち、爾の救を仰ぐ、求む彼等を恒に護り、彼等を此の夕にも、次て至る  
よる およそ てきおよそ あくま かんばう むな しりよ あ いねん まも たま  
夜にも、凡の敵凡の惡魔の姦謀と虚しき思慮と惡しき意念とより護り給え、)  
ねが なんぢちち こ せいしん くに けんべい さんようさんえい  
願わくは爾父と子と聖神の國の權柄は讃揚讃榮せられん、今も何時も世世に、



【 挿句讚頌 第7調 】

**誦經** 世界の救主よ、爾は墓より復活して、人を爾の身と偕に興し給えり。主よ、

光榮は爾に歸す。

**句** 主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

**讚頌** 來りて、死より復活して、萬有を照しし主に伏拜せん、蓋彼は我等を地獄の苛虐より釋きて、其三日目の復活を以て我等に生命と大なる憐とを賜えり。

**句** 故に世界は堅固にして動かざらん。

**讚頌** 仁愛の主ハリストスよ、爾は地獄に降りて、死を虜にし、三日目に復活して、我等の全能の復活を讃榮する者を共に復活せしめ給えり。

**句** 主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

**讚頌** 主よ、爾は寝ぬる者の如く墓に臥して、威嚴なる者と現れ、全能者として三日目に復活し、アダムを己と偕に復活せしめて、呼ばしめたり、獨人を愛する主よ、光榮は爾の復活に歸す。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

**生神女讚詞** 女宰よ、我等地に生るる者は皆爾の帡幪の下に趨り附きて、爾に呼ぶ、生

神女、我が憑恃よ、我等を無數の愆尤より援けて、我等の靈を救い給え。

**奉神者シメオンの祝文** 主宰よ、今爾の言に循いて、爾の僕を釈し、安然として逝かしむ。蓋我が目は爾の救を見たり。爾が萬民の前に備えし者なり、是れ異邦人を照

すの光、及び爾の民イズライリの榮なり。

**聖三祝文** 聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

しせいさんしや われら あわれ しゅ われら つみ いさぎよ しゅさい われら あやまち ゆる  
至聖三者よ、我等を 懐め。主よ、我等の罪を 潔くせよ。主宰よ、我等の 懲を赦  
せい もの のぞ われら やまい いや たま ことごと なんぢ な よ  
せ。聖なる者よ、臨みて我等の 病を癒し給え。悉く爾の名に因る。

しゅ あわれ しゅ あわれ しゅ あわれ  
主、 懐めよ。主、 懐めよ。主、 懐めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。アミン。

てん いま われら ちち ねがわく なんぢ な せい なんぢ くに きた なんぢ むね てん  
天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の国は來り、爾の旨は天

おこな ごと ち おこな わ にちよう かて こんにちわれら あた たま われら  
に行わるるが如く、地にも行われん。我が日用の糧を今日我等に與え給え。我等に

おいめ もの われらゆる ごと われら おいめ ゆる たま われら いざない みちび なおわれら  
債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等

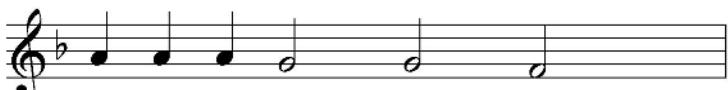
きょうあく すく たま  
を凶惡より救い給え。

司祭) 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。



### 【主日の發放讃詞 第7調】

ハリストオスか神 みよ、なんぢはじゅうじかにてしを死  
ほろぼし、とうぞくのためならくえんをひ園開  
らき、けいこうちよのかなしみをなぐさ  
め、しとになんぢがふくか活つして、せか界  
いにおいなるあわれみをたまいしをつたえ  
大懐



させたまえり。  
給

【 生神女讃詞 第7調 】

こうえいはちちとことせいしんにき歸す、い今  
光榮父子聖神歸す、い今

まもいつもよよに、アミン。  
何時世世

さんびたるものによ、なんぢわがふつかつのほうう  
讃美者爾我復活寶

ぞおうとして、なんぢをたのむものをしょざい  
ぞ藏爾頼者諸罪

のあなおよびふちよりひきあげたまえ。  
坎及淵より引上給

けだしなんぢうむまえにどうていちよ、うむ  
蓋爾生前童貞女、う生

ときもどうていちよ、うみにてのちもな猶おど童  
時童貞女、う生

うていちよにとどまるもののは、われらのす  
貞女止どまるものは、我等の拯

くいをうみて、つみにふくせしもとのをすく  
救生罪に服くせしもとのをすく

いたまえり。  
給

司祭) ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも  
 光榮父子聖神歸今

いつもよよに、アミン。しゅあわれめ、しゅ  
 何時世世主憐主

あわれめ、しゅあわれめよ、ふくをくだ  
 憐主憐福降

せ。

司祭) し ふくかつ われら まこと かみ そのしじょう はは こうえい さんび せい  
 死より復活せしハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母、光榮にして讃美たる聖  
 使徒、克肖捧神なる我諸神父、(某)及び諸聖人の祈禱に因て我等を憐み給  
 わん。善にして人を愛する主なればなり、

アミン。

【 萬壽詞 】

かみよ、わがくにのてんの おう、および  
 神 我國 天皇 及

くにをつかさどるもの、われらのふしゅ  
 國 司 者 我等 府主

きょうセラファム、およびことごとくのせいきょう  
 教 及 悉 正教

のハリストイアニンらを、いくとせにもまもり  
 等 を、いくとせにもまもり

